令和4年度　能美市立湯野小学校　学校評価

重点目標	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞　＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者による意見	今後の改善策
1　組織的な学校運営	①【組織的な教育活動の推進】 主任を中心にPDCAサイクルを機能させ、互いに連携した組織的な教育活動を推進する。	教頭	【努力指標】 主任等を中心にPDCAサイクルを機能させ、互いに連携した組織的な教育活動を推進している。	【教職員アンケート】 「学校経営ビジョン具現化のための各自の役割を認識し、組織的に取り組み、定期的な検証がなされている」と答えた教職員の割合 A　90%以上 B　80～90% C　70～80% D　70%未満	100%　A ・主任を中心に目指す姿への定期的検証、改善策の検討がなされている。 ・主任会は、学校の課題について協議を行う場として機能している。 ・欠員等による主任の負担増など平準化が課題である。	A	・学校評価を一つの指針にして取り組んでいることはよい。 ・欠員による主任層への負担を防ぐために、人員増あるいは補充を教委に強く要望すべきである。	・今年度の反省を受け、学力向上ロードマップが、さらに個々の教員に活用できるものとするために形式、活用方法等の検討を行い原案を作成する。 ・今後も主任会が学校課題解決に向けての協議の場となるよう、時間の設定など年度当初に調整できるとよい。 ・次期主任の育成を視野に入れ、年度末の主任会に若手リーダーも参加し、次年度の構想に参画する機会を設ける。
	②【危機管理体制の徹底】 危機管理体制を整え、予防を含めた取組、迅速で適切に対処する。	教頭	【努力指標】 児童の安全・安心に関して、アンテナを高くし、組織的に迅速、適切に対処している。	【教職員アンケート】 「児童の安全・安心に関して、アンテナを高くし、速やかに報連相を行い、組織的に迅速、適切に対処している。」と答えた教員の割合 A　90%以上 B　80～90% C　70～80% D　70%未満	100%　A ・学校の方針を共有し、教職員が意識して取り組んだ。 ・常に報連相を行い、状況に応じた対応等について十分検討を重ね実施している。 ・感染対策、実施形態を工夫し、可能な中で行事等を実施することができた。	A	・保護者や地域の方に九校時の連絡等が素早く伝わっていたと思う。「コドモン」が上手く機能している。	・感染症対策については、状況に応じた対策を検討し組織的な対応を行う。 ・安全に常にアンテナを高くし、迅速に報連相を行うとともに、生徒指導、健康指導、GIGAリーダーと連携を図り、対応方針を明確にして取組を進める。
	③【働き方改革の推進】 タイムマネジメントの意識を高め、教職員の専門性を生かし、業務改善の取組を推進する。	教頭	【努力指標】【成果指標】 教科担任制、行事や会議の精選・統合化、ICTの効果的活用、スキルの共有、業務の平準化に向けた取組等を行い、業務全体のスリム化を図ることで、時間外勤務時間の短縮を目指す。教職員一人一人がタイムマネジメントの意識を持ち、見通しを持って業務を行っている。時間外勤務時間も前年度同時期に比べ減少し効果が現れている。	【①教職員アンケート】 【②勤務時間調査】 ①「自身は、タイムマネジメントの意識を持ち、見通しを持って業務に 取り組んでいる」と答えた教職員の割合 A　①90%以上かつ②の時間外勤務平均が前年度同時期に比べ減少 B　①80～90% C　①70～80% D　①70%未満	①89% ②時間外平均前年度同月比：7月減,8月増,9月増,10月増(＋10H),11月減 4月～11月　平均47.01H（前年度＋0.8H）　→　①②よりB ・8.9月は計画訪問準備や不安定な学担の支援で、10月からは欠員、担任の交替等を受け大幅に増加した。担任未経験者もおり、見通しをもった業務は難しい現状であった。 ・教務主任が担任兼務となり、また頻回の時間割編成等もあり負担が大きかった。	B	・時間外勤務時間増の影に隠れた部分（生徒指導上の対応など）があるのではないか。きめ細かな対応はありがたいことである。先生方の心・体も健康であってほしい。 ・働き方改革が、子どもへのより濃密な指導につながればと願う。 ・欠員等により、時間割が何度か変わり、「授業の先生がまた代わった」と聞いて子どもや親が不安になったのではないか。 ・働き方の努力指標が「次年度に向けて」と同じ内容であるが、学校の大変さが表れているのか。 ・学級が上手くいかなくなった時と、上手くいかなくなりそうな時に分けて、どんなサポートができるか考える必要がある。	・業務のスリム化の向けての意見交換をもとに、より一層の、スクラップ＆ビルドを実施する。アフターコロナも見据え、見直し精選が必要。 ・ICTの活用による校務の効率化の一層の推進。 ・分掌のロードマップとなるものを残し、担当者が変わっても見通しをもった推進ができるようにしておく。 ・分掌業務の偏り、時期や重なりを見て平準化を図る。（管理職・主任による助言・調整）校務の持ち方については、次年度を見据えて見直し、検討する。 ・中・高学年では教科担任制により、指導の充実・業務改善の両面で成果が見られる。学担との連携等、成果と課題を整理し、次年度の方向性を明確にしておく。
2　確かな学力の育成	①【学力向上に向けての体制確立】 学力向上プランを有効的に活用し、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。	教務	【成果指標】 学期末漢字・計算テスト、重点をおいた単元での単元テスト（算）での平均点が90点を超えている。	【3つの検証結果の組合わせ】 ①学期末漢字テスト②計算テスト③重点単元テストの3つで、平均点で90点を超えた学級数を以下の基準で評価し、その組み合わせでもって総合評価とした 学級数 A　12学級 B　8～11学級 C　6～7学級 D　6学級未満	11学級が90点以上　　B ①②の学期末20問テストでは、10クラスで95点近くの平均点であり、1学期に引き続き、基礎基本の定着が見られた。 ③の重点単元のテストでは、90点以上の平均点だったのは9クラスと、1学期の2クラスから大幅に増えた。	B	・学力は年々上がってきているのではないか。 ・「11／12学級」でB評価ではなく、「B゜」と考えればよいのではないか。基礎基本を大切にした学力向上を継続していただけるとよい。	・学期末に全校で取り組む20問テストは、児童にも教員にも定着しているので来年度も続けていく。 ・学期末の1か月前くらいから、基礎基本の定着を図る時間として朝学習や家庭学習で取り組む意識が高まっているので、学校全体での取り組みとして継続していく。
	②【湯野小スタイルの深化】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学校研究に基づいた湯野小スタイルの授業実践に努める。	研究	【努力指標】 「主体的で対話的な深い学び」の実現に向け、湯野小授業スタイルを具現化した授業づくりに取り組む。	【児童アンケート】 児童アンケートで以下の項目で肯定的に解答した児童の割合 A　90%以上 B　80～89% C　70～79% D　70%未満 知:練習問題を解くことができている。 思:自分の考えを図や言葉や式で書いたり話したりする。 学:分からなくても友達や先生の話を聞いてがんばった。	知:93%　思:86%　学:93%　A・B・Aなので　A ・授業見合い週間やノートの取り組みにより、先生方が児童と共に意識高く取り組んできた成果が出ている。 ・思考Aを目指して、重点②の図と算数用語の指導を意識して授業設計。自、ペアや全体などのアウトプットの後に、どこに着目して、どの用語を使って、どの結論が必要なのかを見取り、もしくは確認し、全体でもう一度アウトプットさせる。	A	・理解できたかどうかの判断方法の一つに「友だちにわかるように説明ができるか」というのがあると思うので、この対話的な学びを大事にしてほしい。 ・コロナ禍で話し合い活動が十分できなかった面もあるのではないか。 ・「授業見合い週間」を実施するなど頑張っている。	・思考力（自分の考えを図や言葉や式で書いたり話したりする）の項目が改善されるように、来年度は以下のような取り組みを計画したい。 ①授業見合い週間において、上級生の授業参観での視点の中に『思考が分かるノート』を入れる。図や言葉で表現しているノートの良さを見つけさせる。 ②全校一斉のノート展覧会をするとよい。そうじ+ゆのっこの時間や帯タイムに設定して、自学コンテストのように取り組む。 ・また、重点②を年度当初から意識して取り組む計画を立てる。
	③【GIGAスクール構想推進】 学習場面における効果的なICT活用に取り組み、GIGAスクール構想を推進する。	GIGA推進教師	【努力指標】 児童の目標達成に向けた効果的なICT機器を活用した学習活動をよく行っている。	【能美市教員質問紙調査】 児童がICT機器を活用する効果的な学習活動を取り入れた指導をしているとした割合 A　90%以上 B　80～89% C　70～79% D　70%未満	90%　A 低学年にも電子黒板が導入され、活用できる範囲を広げられるようにしたことで、積極的にICT機器を活用していくことが多くなった。 活用に差があるので、少しずつその差を埋められるとよい。	A	・ICT機器を使わなくてはならないと捉えるのではなく、ICT機器を使うと便利であると実感できればよい。 ・ICTの活用が働き方改革につながった、という具体例があるなら大いに参考にしてほしい。ICTに詳しい先生の確保にも努められたい（教育委員会と連携）。	・情報モラル教育を発達段階に合わせて実施できるよう、教材等の提案を行う。 ・プログラミング教育をICTサポーターとともに計画的に行う。 ・今年度行った各学年での実践を校内研修会で交流し蓄積して次年度に活かしていけるようにする。
3　豊かな心と人間関係力の育成	①【不登校・いじめ対応】 児童理解や指導・支援の情報を共有し、全教職員で組織的な対応をとり、不登校やいじめの未然防止、早期対応に努める。	生徒指導	【満足度指標】 安心安全な学校生活を送り、90%以上の児童が学校生活が楽しいと感じている。 学級に児童の居場所があり、一人ひとりが学級生活に満足している。	【児童アンケート・QUｱﾝｹｰﾄ】 「学校が楽しい」に「当てはまる＋まあまあ当てはまる」と答える児童の割合 A　95%以上 B　85～94% C　70～84% D　70%未満 QUｱﾝｹｰﾄで満足群に属する児童の割合 A　70%以上 B　50～69% C　40～49% D　40%未満	①84%：C　②68%：B 一学期と同様に、毎月友達アンケートを実施し、「いじめられている」と回答した児童については担任が事実を確認し、いじめ認定会で今後、どのような対応をしていくかを話し合った。夏休みに生徒指導校内研修会を開き、そこでQ－Uの結果で気になる児童の対応を各学年ごとにグループをつくり話し合った。その結果、「学校生活満足群」の児童の割合が増加した。	B	・「学校が楽しい」と感じていない子を把握しておくことが大切である。「学校は楽しい」と感じさせるには何をどうすればよいか一緒に考えてみたい。 ・この評価からは不登校の状況が見えない。不登校児童の回答は「学校は楽しいか」のアンケートにも入っていないのではないか。 ・①②の値に開きがある。差をどう捉えているか整理するとよい。 ・「友だちアンケート」はよい取組である。早めの対応が大切である。 ・いじめ対応が教員によって異ならないようにマニュアル等で同じ対応をしてほしい。先生方のアンテナ、感性、早期対応が大事。	・各学年気になる児童の特性を引き継いでいく。 ・友達アンケートは、紙媒体で行い、残していける形にする。また、「あなたは思いやりのある行動をしていますか」の項目は残していく。 ・「魅力ある学校づくり」の視点と学校評価アンケートの視点をリンクできるとよい。
	②【主体的に行動する児童会、学級会活動】 授業や学級活動、児童会活動等で、生徒指導の3機能を生かし、自己有用観や温かい人間関係を育む。	生徒指導	【努力指標】 クラス会議・学級活動・児童会活動に自分から進んで取り組み、楽しむことができる。	【児童アンケート】 「クラス会議や学級活動、・学年や学級行事などに取り組むのは楽しい」に「当てはまる＋まあまあ当てはまる」答える児童の割合 A　90%以上 B　89～89% C　60～79% D　60%未満	90% 人権集会や湯野っ子わくわくパーティなどクラスで話し合ったことを全校で取り組むことができた。 ・2学期と3学期は、1学期のアンケートをもとに各学年の実態に応じて生徒指導の3機能の中から重点項目を決めて取り組んだ。	A	・「クラス会議」の取組の成果がよく表れている。今後も大切にしていく取組である。	・生徒指導の3機能の取り組みに関しては、1学期に実態をつかむためにアンケート、2学期・3学期は重点項目を各学年で しぼり実践してもらう形がスムーズであった。 ・来年も隔週でクラス会議に取り組む。また、全校がつながる行事なども計画的に行っていく。
4　健やかな体の育成	①【体力づくり】 児童が主体的に取り組む体力づくりや体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	【成果指標】 シャトルランと上体起こしの回数を全学級で1学期の記録より3学期の記録が5回以上上回ることができる。	目標を達成できた3年生以上のクラスが A　8学級以上 B　6学級以上 C　4学級以上 D　3学級以下	3年生以上の8クラスのうち、シャトルランでは、7クラスが3回以上1学期の記録の平均を伸ばすことができた。また、上体起こしでは残念ながら8クラスとも1．5回ほどの伸びにとどまった。3学期にもう一度記録をとる予定である。　B	B	・体力づくりでは測定の時だけではなく、日常の運動が必要で授業のスタートや過程での運動の機会とも協力してもよいのではないか。 ・シャトルランはともかく、上体起こしを成果指標にしたことの可否が問題かもしれない。	かなり限界まで取り組んでいたので、これ以上の伸びを子どもに求めることは、逆に運動嫌いの子を増やすことになるのではないかと危惧する。そこで、子どもの現状を踏まえて、器械体操、特にマット運動や鉄棒が苦手な子が多い状況から、マット運動や鉄棒の技能を伸ばすことに学校全体として取り組んでいくことがよいのではないかと考える。
	②【自己管理能力の育成】 感染症対策への意識を高め、自己管理能力を育成する。	保健主事	【成果指標】 健康指導部や児童保健委員会を中心に呼びかけを行い、感染症対策を意識した生活を送ることができる。	【児童アンケート・保護者アンケート】 「感染症対策を意識して学校生活を送っている」とした割合 A　90%以上 B　80～90% C　70～80% D　70%未満	【児童アンケート・保護者アンケート】「感染症対策を意識して学校生活を送っている」「まあまああてはまる」とした割合が、児童では94%保護者では87%であった。	A	・自己管理能力育成は今後も継続していきたい。 ・感染対策（マスク）が子どもの成長に大きく影響を与えているのではないか。コミュニケーションレベルが低下し人間関係の希薄化、無関心化が心配。今後の状況に応じて考えていってほしい。5月8日からは（感染者は別として）全面的にマスクを外せばよいのではないか。	マスクの着用や黙食など色々な意見がある中、子ども達の健やかな成長を考え柔軟に対応しつつ、かつ感染症対策に取り組んでいくという難しさがあるが、来年度も子どもたちが感染症にかからないように工夫して取り組む必要がある。
5　地域・家庭との連携	①【ふるさと教育の推進】 コミュニティスクールを推進し、地域との連携・協働を図る。	教頭	【努力指標】 地域人材を活用した教科、学活、総合的な学習などの授業を行い、特色ある教育や専門的な指導を推進している。	【教員アンケート】 「地域人材を活用した授業を行うことによって、児童の学習活動が充実した。」と回答した教師の割合 A　90%以上 B　80～90% C　70～80% D　70%未満	94%　A ・CSや地域人材を活用した授業を2学期中に全学年で実施 ・1，2年生の計算では、きめ細かな支援が、定着とともに児童の意欲にもつながった。 ・感染対策で単元の入替え等があり、計画の変更が生じた。	A	・地域人材・資源がまだ隠れているものがあるかもしれない。アンテナ高く情報収集をしていくとよい。 ・地域のよさ・魅力はたくさんある。気軽にこの会、メンバーに声をかけてほしい。 ・学校運営協議会、能美市コミュニティースクールについてもっと保護者や地域住民に知ってもらうことが必要である。	・今年度実施した授業について、成果と課題を整理し、次年度の計画に位置づける。 ・依頼が重なる時期が生じるので、早めにCSDに計画や、実施依頼を渡せるようにする。 ・学習のねらいを十分共有し、地域人材を活用した授業を行っていく。
	②【ふるさと教育の推進】 湯野っ子プランをもとに、地域の自然や文化、人材をいかしたふるさと教育を推進する。	教務	【努力指標】 ふるさとの人、もの、コトとの関る学習の機会を持ち、ふりかえりを交流し合うことで、地域を大切に思う心情を育む教育を推進している。	【児童アンケート】 学校評価のアンケート「能美市や自分の住む町のことやよさについて知っている」に対して肯定的に答えた児童の割合 A　90%以上 B　80～89% C　70～79% D　70%未満	82%　B 1学期に引き続き、陶芸の取り組みや各学年の生活科・社会科・総合的な学習の時間でふるさと（湯野 校区・能美市）の学習をすすめることができた。	B	・九谷の里において陶芸に取り組むことはよいことである。作品を販売したこともよかった。 ・さらに陶芸以外の魅力も見つけていくとよい。	・以前から引き継がれてきている陶芸の取り組みや地域の関わる学習を続けていくと同時に、調べたことやまとめたことを学校外・市外の人に伝える活動を設定していく。そういった活動を通して、ふるさとのよさについて再認識することで、地域を大切に思う心情を育んでいく。